

交信攪乱剤「スカシバコン」に対する農業者の意識調査

村井智子・川村美紀子*・港 大輔**・忠 英一***

(青森農林総合研究センターりんご試験場県南果樹研究センター・*東地方農林水産事務所・**三戸地方農林水産事務所・***青森農林総合研究センターフラワーセンター21あおもり)

Farmer's recognition to the Mating Disruptor Shukashiba-con(cherrytlure)

Tomoko MURAI, Mikiko KAWAMURA*, Daisuke MINATO** and Eiichi CHU***

(Kennan Fruit tree Research Center Apple Experiment Station Aomori Prefectural Agriculture and Forestry Research Center, *Higashichihou Agriculture Forestry and Fisheries Office,

Sannohechihou Agriculture Forestry and Fisheries Office and *Ornamentals Experiment

Station Aomori Prefectural Agriculture and Forestry Research Center)

1. はじめに

青森県では平成6年に交信攪乱剤チェリトルア剤(以下スカシバコンと標記)を核果類害虫コスカシバ *Synanthedon hector* Butlerの防除薬剤として、ウメ、オウトウを対象に普及に移した。その後、モモにも採用したが、スカシバコンの普及率は低い。今後、本剤の普及定着を図るために、普及を妨げている要因を明らかにする必要があり、果樹生産者や病害虫防除員を対象にスカシバコンに対する意識について調査を行った。

2. 試験方法

平成14年2月から平成15年4月にかけて、下記の対象についてアンケート調査を実施した。全回答用紙につき各質問項目毎に回答比率を集計し、自由記載内容を調査した。

①三戸地方農林水産事務所八戸地域農業改良普及センター管内核果類栽培地域

・重点計画指導地区:三戸郡南郷村(現:八戸市南郷区)泉清水21名

・共通計画指導地区:三戸郡倉石村(現:五戸町倉石)14名(村内全域から選抜)

・要請活動地区:八戸市櫛引通清水のモモ生産者11名(平成14年)及13名(平成15年)

②南部地方果樹農家:主としてリング栽培生産者19名

③病害虫防除員等:畑作園芸試験場病害虫防除室所轄の南部地域病害虫防除員45名及び共済組合員10名

3. 試験結果及び考察

(1) 回答者全体の結果

スカシバコンを「知っている」は48.5%、「使ったことがある」は23.2%、「現在使用している」は0%であった。「今後使用したい」は27.3%であった。この傾向は果樹栽培地域でも同様であった(表1)。この結果から、スカシバコンは果樹栽培者も含め、生産者に充分浸透していないことが示された。また、過去に使用したものの現在は全く使用していないこと、今後使用する要望も高くないことが明らかになった。

(2) 八戸地域農業改良普及センター管内核果類栽培地域の結果

平成14年調査の重点計画指導地区と要請活動地区を比べると、スカシバコンを「知っている」は重点計画指導

地区、要請活動地区とも50%程度であった。「過去に使用したことがある」は重点計画指導地区のみに回答があった。「現在の使用」はなかった。「今後の使用」希望は重点計画指導地区で多かった(表2)。スカシバコンについては扱いやすい、ききめが分らないと記載されていた。

平成15年調査の共通計画指導地区と要請活動地区を比べると、スカシバコンを「知っている」は、共通計画指導地域が85.7%で要請活動地区の23.1%より多かった。

「過去に使用したことがある」は共通計画指導地区のみに回答があったが「現在の使用」はなかった。「今後の使用」は要請活動地域ではなかったが、共通計画指導地域で28.6%あり(表3)、その理由は減農薬のためであった。

共通計画指導地区における使用経験者の感想を複数回答で求めたところ、休眠期に高濃度(100倍から200倍)で使用する従来の防除剤と比べ、薬剤の使い勝手は「扱いやすい」、「作業が楽」は両項目あわせて75.0%であった。効果については「効きが良い」が8.4%に対し、「効きが悪い」、「効き目が分らない」の両項目を併せると42.6%となり効果への不安が多かった。価格は高いと評価された(表4)。

これらの結果から、農業改良普及センターにおける重点計画指導地区など計画的に濃密な指導が行われている地区は要請活動地区と比べスカシバコンの知名度は高く、今後の使用に対して意欲は高く、スカシバコンの知識や特性の理解を深める指導が本剤の定着を促す上で効果的であると考えられた。使用経験者のスカシバコンへの評価も「作業が楽」や「扱いやすい」があり、本剤の作業上の有利性を強調していくことが定着のためには重要と考えられた。

(3) 南部地方果樹農家の結果

回収したアンケートを記入者の所轄普及センター毎に仕分けしたところ、回答数は八戸地域は6名、三戸地域は13名であった。

スカシバコンを「知っている」は八戸地域より三戸地域で多かったが、いずれも50%以下であった。「過去に使用したことがある」は八戸地域と三戸地域がほぼ同じ比率で、いずれも17%以下であった。また、「現在の使用」はなかった。「今後の使用」は八戸地域が三戸地域より多かった。「使いたい」理由は水が足りない、減農薬のためであり、「使いたくない」理由は集団で行わないと効果がないからであった。今回の回答者はりんご栽培主体の経営者で、核果類の栽培面積がりんごよりも少ない

こともスカシバコンの知名度が低い一因と考えられるが、両地域では果樹の樹種複合経営が行われていることから、スカシバコンの利用は生産者に浸透していないことが伺われた。今後の使用を考えている理由として、これまでの防除には不可欠であった水の必要性が無いことがあげられ、防除作業の省力・軽減ばかりではなく、水の使用が困難な地域におけるスカシバコンの有利性が示唆された。

両地域の使用経験者は「扱いやすい」、「作業が楽」と評価していた。効果は「効きがよい」あるいは「効き目が分からない」に別れ、価格については「高い」と「安い」の両極に分かれた。使用方法や価格への不満だけでなく、スカシバコンが従来の殺虫剤と異なり、効果が目に見えないことや防除作業の実感が無いことに不安を感じているものと推察された。

(4) 県南地方病害虫防除員等の結果

アンケートの回収率は38%であった。病害虫防除員は回答者の所轄農林事務所毎と共済組合員に仕分けして集計した。

スカシバコンを「知っている」は三戸地方が最も多く、次いで農業共済組合、最も少なかったのは果樹栽培がほとんど行われていない上北・下北地方であった。三戸地方のみに使用経験者がいたが、現在の使用者はなかった。使用経験者からの複数回答で、薬剤は「扱いやすい」、「作業が楽」があげられた。効果については「効きが良い」、「効き目が分からない」があった。価格は「高い」とされた。「今後の使用」は三戸地方と農業共済組合員で「使いたい」と回答があった。「使いたい」理由は減農薬、「使いたくない」理由は効果が分からないがあげられた。

これらの結果から、病害虫防除員や農業共済組合でも、果樹産地でなければ、ほとんどスカシバコンは認識されていないことが示された。スカシバコンの利用を考えている理由に減農薬があげられる一方で、効果についての不安があげられており、スカシバコン使用時における効果判定が今後の課題であると考えられた。

4. まとめ

今回の調査ではスカシバコンは果樹生産農家の半分程度しか認知されていなかったことが明らかとなった。また、病害虫防除員や共済組合員においてもスカシバコンの認知は地域により差が見られ、果樹栽培地帯以外では関心が薄かった。

スカシバコンを過去に使用しても、効果が分からないこと、価格が高いこと、広い面積で使用しなければならないこと等のために現在は使用されていなかった。しかし、使用経験者はスカシバコンは扱いやすい、作業が楽と感じていた。

農業改良普及センターの指導が濃密になされている地域で今後の使用を考えている農業者が多く、スカシバコンの知識や特性の理解を深める指導が本剤の定着に重要と考えられた。

スカシバコンを導入しようと考えている農業者の理由に減農薬や水が不用であることがあげられ、スカシバコンの特性について理解があるものの、効果についての不安があげられ、スカシバコン使用時における効果判定が今後の課題であると考えられた。

表1 「スカシバコン」についてのアンケート調査結果 (平成14年, 15年)

対象名 (実施者数)	全体 (99名)		左の内 果樹生産地 (86名)	
	回答数	同左率	回答数	同左率
知っている	48(名)	48.5(%)	45(名)	52.3(%)
知らない	38	38.4	29	33.7
使ったことがある	23	23.2	23	26.7
使っている	0	0	0	0
使ったことがない	56	56.6	46	53
今後使いたい	27	27.3	25	29.1

表2 八戸地域農業改良普及センター指導別地区における平成14年「スカシバコン」についての調査結果

対象名 (実施者数)	重点計画指導地区 (21名)		要請活動地区 (11名)	
	回答数	同左率	回答数	同左率
知っている	10(名)	47.6(%)	6(名)	54.5(%)
知らない	4	19.0	3	27.3
使ったことがある	5	23.8	0	0
使っている	0	0	0	0
使ったことがない	10	47.6	8	72.7
今後使いたい	6	28.6	2	18.1

表3 八戸地域農業改良普及センター指導別地区における平成15年「スカシバコン」についての調査結果

対象名 (実施者数)	共通計画指導地区 (14名)		要請活動地区 (13名)	
	回答数	同左率	回答数	同左率
知っている	12(名)	85.7(%)	3(名)	23.1(%)
知らない	2	14.3	9	69.2
使ったことがある	12	85.7	0	0
使っている	0	0	0	0
使ったことがない	2	14.3	11	84.6
今後使いたい	4	28.6	0	0
今後使いたくない	5	35.7	3	23.1

表4 共通計画指導地域における使用経験者の「スカシバコン」に対する意識

(平成15年)

対象名 (回答者数)	共通計画指導地区 12名	
	回答数	同左率
従来の防除剤と比較し	扱いやすい	3(名) 25.0(%)
	作業が楽	6 50.0
効果が	良い	1 8.4
	悪い	3 25.0
	分からない	2 17.6
価格が	高い	7 58.3
	安い	0 0